

職員数	財専 団務 本理 部事	所 長	次 長	主任 指 導事	指 導 主 事	主 事	主任 保 健師	主任 運 転手	計
	1	1	1	1	4	2	1	1	12

2 平成8年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をととして青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、新しいプログラムの開発に努め、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料を整備し、各団体の効果的な活動を促進しながら、研修のねらいが達成できるように努めた。
- ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大
 - ア 施設紹介のために「所報」を発行するとともに、社会教育関係機関・団体との連携を図りながら、利用に関する啓発に努めた。
 - イ 県内・隣県の学校・公民館・企業等を訪問し、一層の利用拡大を図った。

(2) 主催事業の効果的な運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会（5・6・2月に実施）
 - イ 親と子・海浜のつどい（7月に実施）
 - ウ 高校生・海浜のつどい（8月に実施）
 - エ 学校週5日制対応事業（年間7回実施）
 - オ 海浜ファミリーのつどい（年間2回実施）
- ② 事業内容の工夫・改善と啓発
 - ア 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容・方法等の工夫・改善を図った。
 - イ 各学校・各種団体に対し、積極的に事業内容の啓発活動を行った。

(3) 現職教育の計画的な推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実施踏査・実技研修を計画的に行い、指導に関して精通するよう努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導者としての資質の向上に努めた。
 - ウ O A機器の活用に精通し、事務の能率化を図った。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他社会教育施設等を視察し、本施設の機能の充実に生かした。
 - イ 施設の特色を生かした研修内容の工夫や資料の作成に努めた。
 - ウ 研修団体の利用上の要望等を基に、運営等の改善に努めた。

(4) 安全管理と安全指導の徹底

- ① 施設の保全と安全対策の徹底

- ア 防災計画に基づき、防火防災訓練を実施するとともに施設の保全に万全を期した。特に、火災発生時の通報体制確立に努めた。
 - イ 日常点検・定期点検を計画的に実施し、安全管理の徹底に努めた。
 - ウ 野外活動施設及び活動コースの安全点検を定期的に行い、活動中の事故防止に努めた。
- ② 安全指導の徹底と事故防止
 - ア 活動エリア内の市道における車両の増大に伴う安全指導の充実を図り、交通事故の防止に努めた。
 - イ 各団体の引率者との連携を密にして、研修活動中の事故、特に海での事故の未然防止に努めた。
 - ウ 研修生の健康観察並びに安全指導を徹底した。
 - ③ 保健・衛生管理の徹底と食中毒の防止
 - ア 食堂衛生管理検査を定期的に行い、食堂関係職員との衛生管理についての共通理解を図り、食中毒の絶無に万全を期した。
 - イ 給食に一部バイキング方式を採用し、給食内容の充実を図った。
- ### (5) 施設・設備の整備
- ① 施設・設備の整備・充実
 - ア 研修活動に必要な施設・設備の計画的な整備・充実に努めた。（乾燥室新築、運動広場土盛整備、自動火災報知受信機改修、風呂の改修、寝具の毛布から布団への交換等）
 - ② 環境緑化の推進
 - ア 樹木園・花壇・屋内緑化等環境緑化を計画的に進め、研修生の情操教育の一助とした。
 - イ 研修団体のボランティア活動を奨励し、積極的な協力を得た。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

相馬市磯部字大洲38番地の3

2 宿泊定員

- 本館定員 200名（ベッド部屋22室、和室2室）
- キャンプ場定員 100名（5人用テント20張）

3 敷地面積

- 200,000㎡

4 建物面積

- 4,226㎡
管理・研修棟、宿泊棟、体育館、総合研修館、乾燥室、温水シャワー室、身障者用トイレ・シャワーほか

5 運動広場面積

- 18,000㎡